

## 新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会（第2回）議事要旨

1 日 時 平成22年2月24日（水）15：00～16：30

2 場 所 総理官邸4階大会議室

3 出席者

（座長）

佐藤 茂雄 京阪電気鉄道株式会社 代表取締役CEO 取締役会議長

（座長代理）

白石 隆 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 所長

（委員）

添谷 芳秀 慶應義塾大学法学部 教授

広瀬 崇子 専修大学法学部 教授

松田 康博 東京大学東洋文化研究所 准教授

山本 正 財団法人日本国際交流センター 理事長

（専門委員）

伊藤 康成 三井住友海上火災保険株式会社 顧問

（元防衛事務次官）

加藤 良三 日本プロフェッショナル野球組織 コミッショナー

（前駐米大使）

齋藤 隆 株式会社日立製作所 特別顧問

（前防衛省統合幕僚長）

（政府側）

瀧野 欣彌 内閣官房副長官（事務）

伊藤 哲朗 内閣危機管理監

西川 徹矢 内閣官房副長官補

河相 周夫 内閣官房副長官補

三谷 秀史 内閣情報官

高見澤 将林 防衛省防衛政策局長

## 4 議事概要

### (1) 政府側説明

防衛省から「周辺諸国の軍事動向」について説明。

### (2) 意見交換

防衛省からの説明後、周辺諸国との安全保障上の協力、周辺諸国の軍事情勢等について意見を交換。その主なものは以下のとおり。

#### (安全保障上の協力について)

- 国際社会の課題にも関連するが、例えば、新しい安全保障上の協力のあり方が韓国との間でもあるのではないか。また、テロのような国際社会共通の課題に対応し、協力していく分野に関しては、中国とも協力できるものがあるのではないか。
- アジア太平洋地域等で地震、津波、サイクロン等の自然災害が発生した際には、我が国も貢献してきているが、こういった場合の対応も重要である。

#### (周辺諸国の軍事情勢について)

- 北朝鮮の弾道ミサイルは抑止できることが望ましく、また、万一、発射された場合には対処できる態勢を整えておくことが重要である。
- 中国については、国防費の伸びといったトレンドが今後も続いていくのかという観点、あるいは、少子化傾向による将来の人口構成を踏まえると、これまでのトレンドは続かないのではないかという観点からも、同国が今後どうなっていくかを考えていく必要がある。
- 極東ロシア軍については、冷戦期のピーク時に比べ、軍事力そのものは低い状態で維持されているが、訓練活動の活発化が見られており、その動向については注目していく必要がある。

#### (その他)

- 周辺諸国の軍事情勢を議論していく上で、日米同盟をどう深化させていくかということも重要なテーマである。また、我が国周辺地域だけではなく、グローバルな安全保障環境の下でどう対応していくかということもあるので、今後、議論を深めていきたい。